

7月の衛研検査情報

～トピックス～



医動物・種類同定検査のまとめ

身近にいる虫で「これは何だろう?」と思うものはありませんか。虫の種類が分かれば、発生源や発生時期、人への害などが分かるため、効果的な対策を立てることができます。医動物担当では、各区福祉保健センターや事業者などの依頼を受けて、害虫類の種類同定検査を行っています。

今月号では、平成22年4月から6月に実施した種類同定検査の結果について、写真付で解説しています。

詳しくは衛生研究所ホームページへ

→http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/inspection_inf/201007/pdf/1-2.pdf

農作物の残留農薬検査

毎日食卓に上る野菜や果物を育てるときには、一般的に農薬が用いられます。食品に残留する農薬の許容量は、農薬や農作物ごとに厚生労働省によって定められています。微量汚染物担当では、市内に流通する農作物等に残留する農薬が厚生労働省の基準を満たしているかを検査しています。

今月号では、平成22年4月から5月に実施した残留農薬の検査結果について解説しています。

詳しくは衛生研究所ホームページへ

→http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/inspection_inf/201007/pdf/3-6.pdf

遺伝子組換え食品の検査

遺伝子組換え技術によって作りだされた食品や食品添加物を「遺伝子組換え食品」といいます。遺伝子組換え食品として国内で流通できるものは、内閣府の食品安全委員会で承認されたものとされています。また、遺伝子組換え品種の混入率が5%を越えると、遺伝子組換えである旨の「表示義務」が発生します。食品添加物担当では、市内に流通する食品が遺伝子組換え食品の表示義務に違反していないかどうかや、承認外の品種が含まれていないかどうかについて検査しています。

今月号では、平成22年4月に実施した遺伝子組換え食品の検査結果について解説しています。

詳しくは衛生研究所ホームページへ

→http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/inspection_inf/201007/pdf/7-8.pdf

薬事検査について

近年、「健康食品」に本来は「医薬品」である成分が含まれ、健康被害を起こす事例が報告されています。薬事担当では、医薬品や健康食品、化粧品などの検査をおこない、表示どおりの成分が含まれているかどうかや、違法な薬物が含まれていないかどうかなどについて検査しています。

今月号では、平成21年度に実施した薬事検査の結果について解説しています。

詳しくは衛生研究所ホームページへ

→http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/inspection_inf/201007/pdf/9.pdf

横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査等の結果に解説を加え、毎月、「検査情報月報」として報告しています。